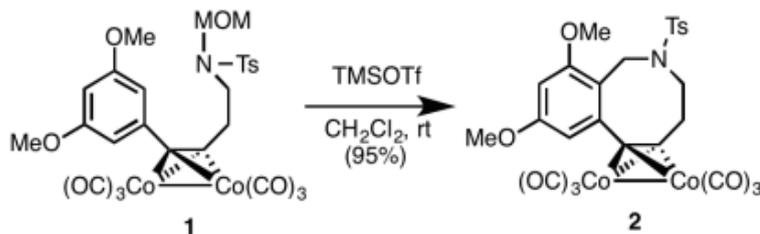


28AB-am007

アルキンコバルト錯体を利用した新規含窒素中員環合成

○高岸 帆奈美¹, 水上 徳美¹, 南雲 紳史² (¹北海道薬大, ²工学院大先進工)

【目的】我々は、アセチレンコバルト錯体を利用したイミニウムイオンの分子内 Friedel-Crafts 反応による 2-benzazocine 誘導体の合成を報告している。¹⁾



今回は、多官能基化された含窒素中員環の合成を目的として、イミニウムイオン生成が可能な基質による分子内環化反応を検討した。

【方法・結果】アセチレンコバルト錯体 **3** を BF₃·OEt₂ 1.2 当量、ジクロロメタン中、室温で処理したところ、7員環成績体 **4** がジアステレオマー混合物として 72% の収率で得られた。窒素原子の置換基を 5-hydroxypyrrolidin-2-one とした基質 **5** の環化も検討したので、合わせて報告する。

